

問1 ドイツの経済と農業に関する記述として正しいものはどれですか。共通通貨と、ドイツの北部から中部にかけて盛んな農業形態の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2022年 大分県公立入試 類似）

1. ユーロと混合農業 2. ユーロと地中海式農業 3. マルクと混合農業 4. マルクと地中海式農業

問2 フランスのエネルギー政策に関して、2022年の統計では特定のエネルギー源が発電電力量の62パーセント以上を占め、火力や水力などの他の発電方法を大きく引き離しています。このフランスの電源構成の特徴と背景について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 鹿児島公立入試 類似）

1. エネルギー自給率の向上や温暖化対策を目的として、国策により原子力発電が非常に高い割合を占めている。
2. アルプス山脈などの急峻な地形と豊富な水資源を利用し、水力発電が電力供給の大部分をまかっている。
3. 北海などで採掘される豊富な天然ガスを輸入し、環境負荷の低い火力発電を国内の主力としている。
4. 広大な国土と偏西風を利用した大規模な風力発電を推進し、再生可能エネルギーのみで電力を自給している。

問3 2010年から2018年にかけての各国の発電状況に関する統計において、総発電量に占める再生可能エネルギーの割合が、イギリスでは約6.8%から35.4%へ、ドイツでは約16.5%から37.0%へと、ともに大幅に上昇しています。このように、欧州諸国を中心として再生可能エネルギーの導入が急速に進められている主な目的は何ですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 温室効果ガスの排出を抑え、地球温暖化を防止するため
2. 原子力発電への依存度をさらに高め、エネルギー自給率を向上させるため
3. 石炭などの化石燃料の消費を増やし、安価な電力を供給するため
4. バイオマス発電のために大規模な森林伐採を行い、農地を確保するため

問4 北ヨーロッパに位置するスウェーデンは、ヨーロッパ連合（EU）に加盟していますが、通貨制度において他の多くの加盟国とは異なる特徴を持っています。スウェーデンの通貨に関する状況として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大阪公立入試 類似）

1. ヨーロッパ連合（EU）に加盟しているが、共通通貨のユーロを導入せず、独自の通貨を用いている。
2. ヨーロッパ連合（EU）には加盟していないが、経済的な利便性のために共通通貨のユーロを導入している。
3. ヨーロッパ連合（EU）に加盟しており、近隣のドイツやフランスと同様に共通通貨のユーロを導入している。
4. 以前は共通通貨のユーロを導入していたが、国内の経済混乱を受けてユーロを廃止し、独自の通貨に戻した。

問5 ヨーロッパの地形について、イタリアの北方に位置するアルプス山脈が、北欧の山脈と比較して標高が高く、非常に険しい地形となっている理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2014年 愛媛公立入試 類似）

1. 新期造山帯に属しており、現在も地殻変動が活発で隆起する力が強い。
2. 古期造山帯に属しており、長期間の浸食を受けたことで岩肌が露出している。
3. 安定陸塊に属しており、氷河によって地表の柔らかい土砂がすべて削り取られたため。
4. 環太平洋造山帯の一部であり、プレート沈み込みに伴う激しい火山活動が繰り返されたため。

問6 イタリアやギリシャなどの地中海沿岸で見られる、夏の高湿乾燥に強いオリーブやブドウなどの果樹を栽培し、冬の降雨を利用して小麦を栽培する農業を何といいますか。（2018年 群馬県公立入試 類似）

1. 地中海性農業 2. 混合農業 3. 酪農 4. 園芸農業

問7 ピレネー山脈を挟んでフランスと隣接しているスペインの、経済や産業における特徴的な説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 長崎公立入試 類似）

1. 欧州連合（EU）の共通通貨であるユーロを導入しており、周辺国との経済的な結びつきを強めている。
2. ユーロなどの共通通貨は使用せず、自国独自の通貨を維持することで、独自の農業政策を推進している。
3. 主要作物である小麦の自給率が100パーセントを超えており、ヨーロッパ州を代表する穀物輸出拠点となっている。
4. EUには加盟しているが、共通通貨の導入に反対し、フランスとの貿易制限を行っている。

問8 イギリスやドイツの宗教構成を示す統計において、プロテスタントやカトリックといったキリスト教の諸宗派と並び、近年、人口の約4割から5割に達する大きな割合を占めている層として正しいものを選びなさい。（2018年 愛知公立入試 類似）

1. 特定の宗教を信仰しない無宗教層 2. 仏教を信仰する東洋系移民の層 3. 東ヨーロッパに多い正教会の層 4. 南欧で主流となっているカトリック層

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ユーロと混合農業	ドイツは欧州連合（EU）の主要な加盟国であり、共通通貨であるユーロを導入しています。農業については、冷涼な気候に合わせてライ麦やジャガイモなどの穀物・飼料作物の栽培と、豚や牛などの家畜の飼育を組み合わせた混合農業が北部から中部にかけて盛んに行われています。地中海式農業は、夏季に乾燥するイタリアやスペインなどの南欧で見られる形態であるため、ドイツの地理的条件とは異なります。
問2	答え 1 エネルギー自給率の向上や温暖化対策を目的として、国策により原子力発電が非常に高い割合を占めている。	フランスは1970年代の石油危機（オイルショック）を契機に、エネルギーの安定確保と自給率向上を目指して原子力発電所の建設を強力に推進してきました。2022年時点でも、全発電電力量の約6割以上を原子力発電が占めるという、世界の主要国の中でも突出した電源構成となっています。近年は再生可能エネルギーの導入も進められていますが、依然として原子力が同国の主要なエネルギー源であることは、地理・公民分野における重要な特徴です。
問3	答え 1 温室効果ガスの排出を抑え、地球温暖化を防止するため	イギリスやドイツなどの欧州諸国では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）などの温室効果ガスの排出を削減するため、太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーへの転換を強力に進めています。2010年代以降、各国で固定価格買取制度（FIT）の導入や技術革新が進んだことにより、総発電量に占める割合が飛躍的に高まりました。
問4	答え 1 ヨーロッパ連合（EU）に加盟しているが、共通通貨のユーロを導入せず、独自の通貨を用いている。	ヨーロッパ連合（EU）の加盟国は、経済的な統合を深めるために共通通貨「ユーロ」の導入を進めていますが、すべての加盟国が導入しているわけではありません。スウェーデンは1995年にEUに加盟したものの、国民投票の結果や経済政策の判断に基づき、現在も本国通貨であるスウェーデン・クローナを使用し続けています。このように、EU加盟国でありながらユーロを導入していない国は他にもデンマークなどが存在します。
問5	答え 1 新期造山帯に属しており、現在も地殻変動が活発で隆起する力が強い。	アルプス山脈は、中生代以降の比較的新しい時代に形成された「新期造山帯」に分類されます。この地域では現在もプレートの運動による隆起が続いており、風雨や氷河による浸食を受ける速度よりも山が盛り上がる力のほうが強いと、鋭い峰々が維持されています。対照的に、北欧のスカンディナビア山脈などは古い時代に形成された「古期造山帯」であり、長年の浸食によりなだらかな地形になっています。
問6	答え 1 地中海性農業	地中海沿岸に広がる地中海性気候は、夏に亜熱帯高圧帯の影響で雨が極端に少なく乾燥し、冬には偏西風の影響で比較的多くの雨が降るといった特徴があります。この気候条件に適応するため、夏には乾燥に強い硬葉樹（オリーブやコルクがし）やブドウ、柑橘類を育て、冬には降雨を利用して小麦を栽培する仕組みが整いました。混合農業は家畜の飼育と穀物栽培を組み合わせる形式、酪農は乳牛の飼育を主とする形式であり、気候への適応の仕方が異なります。
問7	答え 1 欧州連合（EU）の共通通貨であるユーロを導入しており、周辺国との経済的な結びつきを強めている。	スペインは1986年に当時のEC（現在のEU）に加盟し、2002年から共通通貨ユーロを導入しています。これにより、隣国であるフランスをはじめとする他のEU加盟国との間で、為替変動のリスクなしに貿易や投資を円滑に行えるようになってきました。なお、小麦の自給率が100パーセントを超えているという特徴はフランスに該当します。
問8	答え 1 特定の宗教を信仰しない無宗教層	西欧や北欧の先進諸国では、社会の世俗化や価値観の多様化が進んでおり、伝統的なキリスト教の枠組みに属さない人々が増加しています。イギリスやドイツの宗教別人口割合をみると、プロテスタントとカトリックが混在する一方で、いずれの宗教も信仰しない「無宗教」の割合が40%から50%近くにまで上昇しているのが現代のヨーロッパにおける大きな特徴の一つです。